



いつかは「送られる人」です。

いずれは最期を迎えねばなりません。その時、ただいつまでも「延命措置」に頼る医療でなく、医療の質を上げ、住みなれた所で、「自分らしく生き」、「自分らしく逝きたい」と誰もが希望するような医療にするために自分の意志を「文書」にするお勧めです。その文章は

○私の疾病が現代の医学では不治の状態にあるか、または老衰で死期が迫っている  
と診断された場合には、いたずらに死期を引き延ばすための延命措置(経管栄養、胃ろう増設、中心静脈栄養、呼吸器装置)は一切お断りします。

○但しこの場合、私の苦痛を和らげる処置は最大限に実施してください。

○私が数ヶ月以上にわたっていわゆる植物状態に陥った時は、一切の生命維持装置(呼吸器、経管栄養、輸液)を取りやめて下さい。というものです。

元気で長生きをし、最後は苦痛を取り除き安らかに、穏やかに旅立ちたいというのはすべての人の願いです。このお話をヒントに、家族で話し合う機会が与えられましたことは感謝でした。

## 山、川を歩く

吉田 計人(二六区)

私は仕事柄毎日土に接していますが未だ土中深く見た事はありません。其処で時々山の切り通しや工事現場へ出掛けます。岩盤があり、其の中には貝殻の化石と、時には木片すら出土し、其の木片を干すと年輪が変形して一枚一枚はがれますが、火中

に投じても燃焼はしません。貝殻の化石は風化してしまいます。歩を少し鑛川の上流に向けてと眼前に石灰岩の山容が迫ります。其の上流には直径四〜五メートルもあるチャート(火打石)群、其の頂には小さな祠が祀ってあります。これらはみな何時の時代にか海底に堆積した石灰質の生物や放散虫(プランクトン)の遺骸だと同行者は言います。いささか不謹慎ですが、台風や大雨で荒れた後、谷に入ると昨日誕生したばかりの様な真新しい岩盤を見ることが出来ます。

幾重にも重なり玄武岩らしき赤黒い硬い岩が、高い垂直な崖を形成して規則正しく水平の層もあれば、斜めに傾き隣の岩に寄りかかって食い違っているようにも見えます。又少し離れば柔らかな白い砂岩が露出しており、通年風化作用を受けています。普段は、平穏な山、川も一旦荒れると形相を一変してしまいます。時には、野鹿にも出会えます。尻の部分が真ん丸く白く、時々後ろを振り向き、やがて茂みの中へ消えていきます。目線を動物に合わせると茂みの中には、獣道がトンネル状に奥へと続いています。一年を通じて春先のカタクリから始まり、一つ花、二輪草と其の時々咲く花を見たり、山容を見たりとしますが、熊の足跡らしき物を見れば帰路にとつきます。

## 支え合って生きる

舟根登志子(二区)

2011年の世相を一字で表す「今年の漢字」が「絆」に決まりました。今年ほど絆を耳や、目にした年はなかったと思います。家族、友人、知人、仲間、そして地域、とても大切です。

先日「上毛川柳」に「どこまでが 幸せなのか 思案する」と、プータンの国王が来日してから、ニュース等で幸福度という言葉も耳や、目にしました。群馬県は、都道府県で、二十五位、関東で、一位とか。何をもちて幸せと感ずるか、人それぞれ違ふと思えますが、家族の健康、友人、知人、仲間、との絆という答えが多いということ

近年、単身世帯、二世帯が増加し、地域における人と人との絆が希薄化し、社会的な問題となつていきます。人に迷惑をかけたくないと誰もが思います。でも誰もが年を重ねて地域の皆様に支えていたただかなければ無理なことも、お互いさまです。お互いさまなのです。

富岡市も二十四年度に「地域で助け合う精神」ふれあいの居場所づくりの勉強会が始まります。住民同士が支え合いながら、ともに地域づくりに参加し、住民同士のつながりを再構築し、人と人との絆を深め、支え合って、楽しく日々を過ごせることに感謝し、一日一日を大切に、そして丁寧に生きていけたらと願っております。

## 「学ぶこと・育むこと」

小川正祺(一区)

生涯学習が広く人々の話題にのぼるようになって久しいのですが、富岡市では、現在、市民の皆さんが、その意義や趣旨などをあまり考えなくても、比較的軽い気持ちで学習に参加している姿を拝見出来るようになったことは大変喜ばしいことです。市の生涯学習への取り組みや、生涯学習奨励員さん方の地道な活躍のお陰として深く感謝

申し上げます。「学習」という言葉はその裏に「教える」という前提が顔を出して少々窮屈な気もしますが、生涯学習に限っては、自分から学ぶ内容と環境を選んで、自主的に身につけるような勉強とでもいった学習なので、あまり肩の凝るような取り組みではありません。また、そうでなければ誰でも参加できる意味がありません。また、「学ぶ」という言葉を「他から教え込まれる」と考えないで、「育む」(はぐくむ)という言葉に置き換え、自分で学びとるという気持ちと考えるみると少し楽になりますね。「どんな年齢層でも、どんな学習内容でも、自分の可能な範囲で、身につけられる勉強」と判れば、それが生涯学習のスタートです。その機会は、生涯学習センターでも、地区の公民館、又は適当な指導者でも構いません。

私は生涯学習を学びそれらを育み地域の幸せのために、懸命な努力を続けている沢山の仲間を知っています。それらの集団の人々は皆明るい幸せの表情でいっぱいです。その活躍の範囲も広く、成果も一段と上がる一方です。生涯学習は、何か特別な学習ではなく、あなたの年齢、あなたの趣味を、あなたの身近かな会場で続けられます。とにかく、始めてみましょう。地域では「生涯学習奨励員」の皆さんが相談をお待ちしています。市でも生涯学習を全力で応援しています。さあ、あなたも、ボチ、ボチ始めてみては如何でしょうか？

イラスト